

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5-29		
自己評価作成日	令和4年2月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0177400231-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出の機会が減る中、季節に合った行事や食事などを通じで生活の中にも楽しくなることが増えるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR石狩沼田駅から徒歩圏の閑静な住宅地にある平屋建て1ユニットのグループホームである。沼田町が運営する事業所であり、同じ町が運営する特別養護老人ホームや養護老人ホームが敷地内にあり、相互に協力している。共用空間を居室が取り囲む配置で、全体を見渡しやすく、南には眺めの良いベランダもある。共用空間にはぬいぐるみや利用者が作った装飾が飾られ親しみやすい雰囲気であり、床暖房や加湿器により温度や湿度も調整されている。町が運営する事業所のため行政との連携体制が整い、最近では町から「介護アドバイザー」の派遣を受けてサービスに関する助言を得たり、職員のストレスチェックの結果も町に報告している。家族の来訪を受けづらくなっているが、街中で職員が家族に出会うことも多く、家族との情報交換が密にできている。また、以前は2~3か月に1回の発行だった「なごみ通信」を毎月発行とし、家族への情報提供を充実している。ケアマネジメントの面では、介護計画見直し時のモニタリング記録表やカンファレンス記録を丁寧に作成して状態に沿った計画を作成している。感染症に注意しながら、散歩や買い物、温泉施設やパラ園への訪問など、できる範囲の外出を支援しているのも特徴である。居心地のよい環境のもと楽しく生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で話し合いをし、意見を出し合って理念を決めている。施設内に掲示し、各自ネームプレートの裏に書きこみ、実践できるよう意識付けしている。	経営理念の中に「利用者が地域の人と共に安心して暮らせる生活環境を提供します」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を共用空間と事務所に掲示し、職員は理念に沿った個人目標を立てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近年はコロナ禍の影響により、地域交流が困難な状況となっている。コロナの状況を見て、今年は地域の方と交流できる行事を計画予定である。	感染症流行前は隣接する特別養護老人ホームの行事に参加したり、保育園児や幼稚園児が来る際に訪問して交流していた。感染症収束後に再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解が深まるよう、家族を通し地域へも深まるよう活動しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催が困難ではあるが、家族とは連絡を取りながらサービスについての意見なども伺い活動に生かせるよう配慮しています。	感染症流行前は2か月ごとに運営推進会議を開催していたが、現在は開催できていない。	当面は文書による2か月ごとの会議の開催を期待したい。事前に報告事項の提示とテーマを設定し、具体的な事例を上げながらメンバーに意見を募り、意見と職員が検討した内容を議事録にし、メンバーに送付することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町営施設である利点を生かし、町の担当者とは顔なじみであり意見交換や協力関係も築きやすくなっています。	事業主体が沼田町であるため、町の担当者と電話ですべて相談や情報交換ができる。町から「介護アドバイザー」の派遣を受け、サービスに関する助言を得ている。職員のストレスチェックを行い、結果を町に報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず自由に外へ出られる状況。禁止対象となる行為については定期的にビデオ学習などを行い全職員理解できるよう取り組んでいます。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとに身体拘束に関する適正化委員会を行っている。委員会と勉強会の議事録および資料をより分かりやすく整理する予定である。玄関は夜間のみ施錠して、日中に入力がある場合はセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても身体拘束同様、学習する機会を持ち全職員が理解できるよう取り組んでいます。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで実際に制度を利用した利用者がいないため、実感しにくい部分ではあるが、個々に資格を取得する際など学ぶ機会は設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所する際に契約や重要事項説明書について丁寧な説明を心がけています。不明な点はその都度説明を行い理解が図れるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた際や、電話などで最近の様子をお話し家族の意見も伺うように心がけています。その都度伺った意見は全職員で共有できるよう、ノートに記すなどしています。	感染症流行中もできる範囲で家族の来訪を受けている。家族から得られた意見はケアチェック表や連絡ノートに記載し、職員間で共有している。利用者の様子や職員の動向を載せた「なごみ通信」を毎月作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度全体会議を開催し、職員で話し合う機会を設けている。また、その都度日常的にも気になることは管理者が聞き対応するようにしている。	月1回の全体会議の際に職員が活発に意見交換している。年3回、職員の目標設定や目標管理に関する個人面談を行っている。職員は行事や通信の作成、室内装飾などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員とコミュニケーションをとりながら勤務状況や個々の努力を把握し、代表者へ報告している。代表者は週に数回訪れ、状況を把握するようにしています。給与水準も見直し働きやすい環境となるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師の意見もうかがいながら、実践に活用できるものがないか模索し全体的なレベルアップを心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の福祉施設は顔なじみの職員が多い為交流も多い。近隣施設合同での研修会を実施することもある。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には面談し、可能であれば見学をしていたりなどして不安なことや要望を確認している。初期は会話を多く持つことで関係性を築くように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談するなどして家族が必要としていることを聞いています。入所後は面会や電話などで様子をお話ししながら必要なサービスの検討を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況などを聞き、他のサービス事業者とも検討しながら必要なサービスを提供するよう心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できること」を行うことで、お互いに必要な存在として関係が築けるよう配慮しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などで近況を報告し、家族とその都度情報を共有できるようにしています。また、病院受診時等出来る範囲で家族の協力を促しながら、共に本人を支えていく関係となるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で複数の人との交流は困難ではあるが、これまで利用していた商店やなじみの店なども継続して利用できるように支援しています。	感染症流行前は利用者の友人や知人の来訪があり、感染症収束後はまた来訪を受けたいと考えている。現在も利用者が近くの床屋や商店を利用したり、町の温泉施設、隣町のバラ園などに出かけることができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性には留意し、トラブルにならないよう配慮しています。また、孤立してしまわないよう、利用者同士がかかわりあえるようなレクリエーションなども行い交流の場を設けるようにしています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援経過は引継ぎを行い、新しい環境にも馴染みやすくなるよう配慮しています。サービス終了後も町で家族と会った時には挨拶をし、近況の話をすることがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から本人の思いなどを聞き取り、可能な限り実現に向けて努力しています。会話が困難な場合は、普段のしぐさや行動、表情などと共に家族の思いなどを考慮して、これまでの生活から本人が好むであろう状況を考え、ケアを行うようにしています。	ほとんどの利用者は言葉で希望や意向を表現でき、難しい場合も表情やしぐさから把握している。利用者の詳細な情報を記載したフェイスシートの作成を進めているが、作成できていない利用者も多い。	フェイスシートについて、全利用者の作成を進めることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人や家族、他のサービス事業者等から生活歴など情報収集し、職員間でも共有しています。サービス利用開始後も会話の中から情報を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身状況を見て、出来ることや興味のあることを把握し、それぞれが出来ることを中心に取り組めるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を大切に、カンファレンスで様々な意見を出し合い介護計画を作成しています。利用者ごとに担当者を決め、担当者がモニタリングを実施し介護計画へ反映するよう努めています。	4か月の期間で計画を更新している。職員意見の集約によるモニタリング記録表の作成とカンファレンスにより見直ししているが、今後は家族の意見をより収集、反映したいと考えている。日々のケース記録は目標番号を記しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って個別にパソコン入力し、パソコンは全職員が閲覧できる状態で共有している。日々気づいたことはチェック表等に記入することで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を踏まえて、その時々で必要なサービスとなるよう、外出や受診の支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、病院、美容院など町内の施設を利用し、地域資源を活用しながら豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の病院をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療を実施しています。専門科への受診が必要な際には、町外の病院へも受診しますが、かかりつけ医と相談しながら必要な医療が受けられるように支援しています。	協力医療機関による月1回の往診を受けている。眼科や精神科を受診する場合は家族または事業所で通院を支援している。受診内容をパソコンのケース記録に記載し、受診分だけを抽出して見ることができます。	

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無いが、月1回の訪問診療時に相談し、気になることが有ればその都度電話で相談しながら外来での受診も行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な際には家族と共に病院へ行き、治療方針などを確認しています。病院へは生活状況を伝え、退院後もスムーズに帰所できるよう病院とも連絡を取りながら支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師がいないため、医療行為が発生しない範囲で可能な限りの支援を行っています。重度化した場合については、その都度家族と話し合いながら支援しています。	利用開始時に重要事項説明書の中の「利用者が重度化した場合における対応」について説明し、署名・捺印を得ている。医療行為が必要な場合の看取りは難しい旨を説明し、重度化した場合はスムーズに医療機関に移れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習を受講し、緊急時のマニュアル作成も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。日中・夜間どちらでも対応できるよう、それぞれの想定で訓練しています。	年2回、昼夜を想定した避難訓練が実施され、消防や関連施設の協力を得ている。職員の救急救命訓練も計画的に実施され、災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、地震等火災以外の災害の対応についての確認は十分といえない。	事業所の地震対応マニュアルや、行政が作成している防災マップなどを参考に、地震等の初期対応やケア場面別の対応について定期的に話し合う機会を持つことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや言葉遣いには配慮し、プライバシーを損ねないような言葉かけになるよう配慮しています。気になったことは、職員同士でも声を掛け合い注意するようにしています。	年上の方を敬い、利用者を「さん」づけで呼びかけている。申し送りは事務所で行い、個人情報には適切に保管している。気になる言葉遣いや対応があれば、職員間でもその都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から職員は利用者とかかわりを多く持つように心がけ、意思表示がしやすい関係性となるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は本人の要望を聞き、可能な限り本人のペースでやりたいことを中心に行うように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院の利用は定期的に行い、服装も季節に合ったものになるよう促しながら、好みのものを着用できるよう支援しています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みに合わせて量を調整し提供しています。コロナで外出する機会が減っており、食の楽しみが持てるよう少し豪華なメニューに変えたり、出前を取ったり、みんなで作る機会を設けるなどしながら工夫して食事を楽しめるよう配慮しています。	食材会社の献立を基本に、誕生日には天ぷら定食やラーメンなど本人の好きな料理を提供している。利用者と一緒に蒸しパンやフルーツヨーグルト、カレーを作ったり、ほたる館での昼食会など感染状況をみながら食事を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事や水分量は記録し、不足しがちな場合は代替品を提供するなどして促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、一人一人の能力に応じた介助を行っています。必要時には歯科受診を促し、口腔内の清潔が保てるよう支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は一人ひとり記録し、それぞれに合わせて声掛けし促しを行っています。	自立している利用者も多いが、全員の排泄状況をケアチェック表に記入し、個々に応じた声かけをしながら昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。時間帯や本人の状況に応じて排泄用品を使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動など排便がスムーズになるような働きかけを行い、必要に応じて医師とも相談しながら下剤の調整も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	どの利用者も少なくとも週に2回は入浴できるように記録を行いながら入浴を促しています。それぞれの気分やタイミングを見て声をかけています。	日曜日以外の午前中を中心に、一人週2回～3回の入浴を支援している。入浴剤を利用し、好みの湯加減で職員と会話をしながら入浴を楽しんでいる。羞恥心に配慮して少し離れた場所で見守ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休むことができるよう、日中に活動を促しています。眠れないときには側に寄り添い話を聞くなど、落ち着ける環境を作りながら穏やかな時間となるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての説明書を個々に綴りいつでも確認できるようにしています。通常の処方に変更になった際や、通院して臨時薬が処方された際など、その都度連絡ノートへ記入し職員が共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや出来ることを促し、お礼を述べるなどしています。嗜好品も継続して楽しめるよう工夫し支援しています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出する機会は減っているが、密にならない環境の下で外出したり、ドライブする機会をもうけ、外へ出る機会も確保しています。	感染症流行により外出する機会は少なかったが、車いすの利用者も一緒に敷地内を散歩したり、ベランダやテラスで外気浴をしている。プランターの花に水をあげたり、トマトの収穫を手伝う利用者もいる。町内のドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所や家族が金銭管理しているが、少額を手持ち持ち外出時など自らのお金で好きなものを購入することはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話を掛けることはできる。携帯電話を所持している方もおり、充電が切れていないかなど支援しながら、受診時に出ることができるように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけを行い、教養空間は装飾しすぎないようにしています。温度や湿度にも配慮し、居心地よく過ごせるよう環境を整備しています。	天窓から明るい光が注ぐ開放感のある造りで、居間や食堂を中心に居室が配置されている。大型の空気清浄機も設置している。壁には利用者の作品や季節の装飾、日めくりカレンダーや写真などが飾られている。ベランダもあり、季節に応じて外気に触れながら景色を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間がワンフロアの為一人になる空間が居室しかないですが、気の合った利用者同士で過ごせるよう、座席の位置など工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物はすべて各々で持ち込んだ家具などを使用しています。本人にとって過ごしやすいものとなるよう、本人の好みに合わせた居室となっています。	各居室には押し入れと暖房器具が設置されている。利用者に応じてベッドや布団を持ちこみ、今までの生活様式を継続できるようにしている。テレビや仏壇、ぬいぐるみを持ってきたり、きり絵や書初めなどを飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に応じて介護機器を設置したり、家具の配置なども話し合いながらその都度変更し工夫しています。		

目標達成計画

作成日：令和 4年 3月 24日

市町村受理日：令和 4年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回、昼夜を想定した避難訓練が実施され、消防や関連施設の協力を得ている。職員の救急救命訓練も計画的に実施され、災害時に必要な備蓄品も用意している。一方、地震災害以外の災害の対応についての確認は十分といえない。	した業務継続計画(BCP)を令和4年度に作成する。	現在ある様々な対応マニュアルを集約し、地域住民とも定期的に話し合える機会を持ち計画策定を進めていきたい。	令和4年度中
2	23	現在利用者にかかわる生活・身体状況など職員が把握し、個々の目標達成計画に向けたプランニングの整理や書類の集約化を図っている段階のため、未実施のものも多い現状。	利用者9名の身体・生活状況はもちろん趣味趣向を含め個人を見るトータル的にプランづくりを進めるとともに、職員も対応できる職場の組織改革を進める。	利用者担当の強化を進め、書類の整理(統一化)を図り、常日頃のカンファレンスを行い短期長期プランへとつなげる。	令和4年度中
3	4	運営推進会議においてコロナ禍の影響もあり地域住民やご家族との定期開催が出来ていない状況。	コロナ禍であっても書面なりをもって地域住民との関わる機会を創出する。	地域住民への意見など集約できる仕組みづくり、施設見学などの機会を設け、地域に開かれた施設づくりを進める。	令和4年度中
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。